

EBPM推進の目的、現状・課題、取り組み概要（ロジックモデルの前提）

目的	政策の質の向上	・全ての府省庁において、社会課題の解決に資する効果の高い政策が立案され、意図した通りに現場に届き、機能するような事業運営がされるときともに、世の中の変化に対応して、あらゆる政策について機動的・柔軟に立案し、事業を改善していくサイクルが確立・継続する。
	行政の政策立案能力の向上と働き方改革	・管理職員のマネジメント能力及び行政官の政策立案能力が向上する。 ・行政官が仕事にやりがいを感じることで、モチベーションが向上するとともに、霞が関で働く人が自身の力を十分に発揮できるようになることで、公務の魅力が向上する。
現状・課題	各府省における体制整備・推進チームの役割発揮	・令和5年度から約5,000の全事業のレビューシートにEBPMを導入したが、令和5年度時点で、支援・点検すべきRSに対応できるよう、機動的な体制を確保していたり、独自の研修を実施している府省庁の推進チームもあった一方で、そこまで至っていない府省庁が多く、推進チームの体制整備、能動的な対応等にばらつきがみられた。このため、令和6年度は、行革事務局から、推進チームの体制整備の事例を示しつつ、体制整備を各府省に要請したところであり、各府省庁においてEBPM推進部局と会計課で役割分担を明確化し、連携が進みはじめている。
	人事異動による推進の遅滞	・令和5年度から行政事業レビューにEBPMを導入し、レビューシート作成プロセスを2サイクルしたところであるが、人事異動を契機としてEBPMの取組や熱意が低下するという意見もあり、いかにしてEBPMを定着させ、事業を改善し、ステップアップしていくことを継続することも課題である。
	レビューシートの品質向上・予算編成過程での活用	・令和5年度には、事業が実際に直面している課題等が適切に表現されていない、事業の効果を測定できる指標の設定が不十分である、点検を踏まえた事業の見直し・改善の方向性がいまいであるなど、RSの記載内容（事業目的、現状・課題、効果発現経路、改善の方向性等）にはばらつきがみられ、有効性の観点から事業改善のPDCAが機能していない状況があったことから、28事業を重点フォローアップに指定し、行革事務局等が伴走支援し、RSの改善を求め、その成果を省内に横展開を図ったものの、EBPMの定着には更なる取組が必要な状況であった。令和6年度には、事業所管部局だけでなく、推進チーム（EBPM推進部局と会計課）もメンバーとしたワークショップを実施し、省内へのEBPMの理解拡大、RSの質の向上、知見の蓄積を目指したものの、昨年度に比べ改善の動きは感じられるが、まだ質のばらつきがみられる。このため、今後も、RSの質の向上の取組を継続するとともに、RSシステムに蓄積されたデータを活用して、改善状況の分析方法を見出していきたいと考えている。 ・予算編成過程での積極活用を目指しているが、RSの質の向上途上ということもあり、現時点では活用は十分とは言えないが、RSシステムの稼働を機に更なる活用を目指していく。
	EBPMの取組を通じた働き方改革の実現	・近年、国家公務員志望者の減少や途中退職者数の増加は、若手職員が政策立案に関する実務的な思考経験や実践ができておらず、それが魅力ややりがいにつながっていないのではないかといい意見もあり、EBPMの取組を通じて、政策立案の経験やノウハウの集積を職員に促し、職場の魅力の向上、やりがいの実感、霞が関の人材育成にもつながるのではないかと考えている。
取組概要	・RSの考え方、書き方、活用場を指南するため、以下の取組を行っている。 ①【ルールや考え方を文書化】 各府省に対し、ガイドブック・測定のポイントを作成・改訂し、提供するとともに解説会を実施 ②【伴走支援による実践】 実際の事業を取り上げRSの質の向上についてワークショップを開催、有識者の派遣（研修含む） ③【実践等で得た知見を共有・徹底】 EBPM推進委員会等で各省の優良事業改善事例等の横展開	

EBPM推進についてのロジックモデル

アクティビティ

【政府全体の望ましい変化】

【制度面での対応】

- ・各省の取組を見て実施要領・RS作成要領を見直し

【RS考え方・書き方指南】

- ・ガイドブック・測定のポイントの提供
- ・ワークショップ開催
- ・解説会の実施

【EBPM推進委員会等の開催】

- ・各省の取組（優良事業改善事例等）を共有

アウトプット

【省内・課室内のコミュニケーションの活性化】

- ・幹部職員以下、若手を含めて意欲を持ってRSの作成に取り組む
- ・RSを記載することを通して若手が貢献できる機会が生まれ、モチベーションが向上する
- ・行政官が自分の意見が言えて、認められると感じる

短期アウトカム

【RSの記載内容の充実（質の向上）】

- ・「事業目的」「現状・課題」の記述が充実する（実際に直面している課題が記載される）
- ・効果発現経路の記述が充実する
- ・これまでの議論を整理し、「改善の方向性」の記述が充実する

【予算編成過程でのRSの活用】

- ・行政官がRSを用いて予算査定において、政策の目的・内容・効果をロジカルに説明する

中期アウトカム

【政策・事業の効果が把握できるようになる】

- ・設定した指標の経年変化を見て、事業の効果が明確になる

【政策の課題・ボトルネックが明確になる】

- ・設定した指標の経年変化を見て、順調でない政策・事業のボトルネックが明確になる
- ・点検で政策の課題が新しく見つかる

【財政当局と、直面している課題について共通認識ができる】

- ・RSを用いて財政当局と事業所管部局が議論する

【行政経験の継承の習慣化】

- ・仕事の意義を再認識し、RSにより共有化
- ・組織の考えを「デザイン」し言語化することが習慣化する

長期アウトカム

【発見した課題に対して対応する】

- ・事業改善のスピードが上がる
- ・課題を踏まえた事業の改善を行うなど、効果が出ない政策が見直される
- ・ボトルネックを踏まえたRSのロジックモデルのアップデート、事業の改善を行う（RSの「改善の方向性」の記述が充実する）

【課題を共有した上で予算査定を実施する】

- ・予算査定においてエビデンスが活用され、事業の有効性が高まる

インパクト

【政策の質の向上】

- ・社会課題の解決に資する、効果の高い政策が立案されている
- ・世の中の変化に対応した政策の見直しが行われる
- ・全ての府省庁の政策が意図した通りに現場に届き機能する

【行政官の政策立案能力の向上】

- ・行政官（若手）の政策立案能力の向上
- ・課室長級の職員のマネジメント能力の向上
- ・ロジカルシンキングが当たり前の行政になる。

【予算の質の向上】

- ・自治体・企業が制度を活用・利用しやすいと感じる

【機動的で柔軟に事業を立案・修正するサイクルの確立・継続】

- ・引継ぎが円滑に行われ、事業をステップアップしていく取組が継続する
- ・人事異動による行政の質の低下を防止

【組織力の強化】

- ・イノベーションが生まれる環境の実現
- ・各課室が人事異動によるマイナスの影響がない、サステナブルな組織になる

【霞が関の働き方改革の実現】

- ・行政官（若手）が仕事にやりがいを感じ、モチベーションが向上する
- ・霞が関で働く人が自身の力を十分に発揮できるようになる

【公務の魅力の向上】

- ・国家公務員を目指す人が増える
- ・国家公務員の離職率が低下する

アクティビティ アウトプット

短期アウトカム

中期アウトカム

※インパクトについては1枚目のロジックモデルと共通

長期アウトカム

最終アウトカム

